

選択協議題 A

地域との連携・協働による新しい高等学校づくり

～市立札幌大通高等学校の取組事例～

札幌市教育委員会学校教育推進課

指導主事 白川千尋

令和元年10月23日

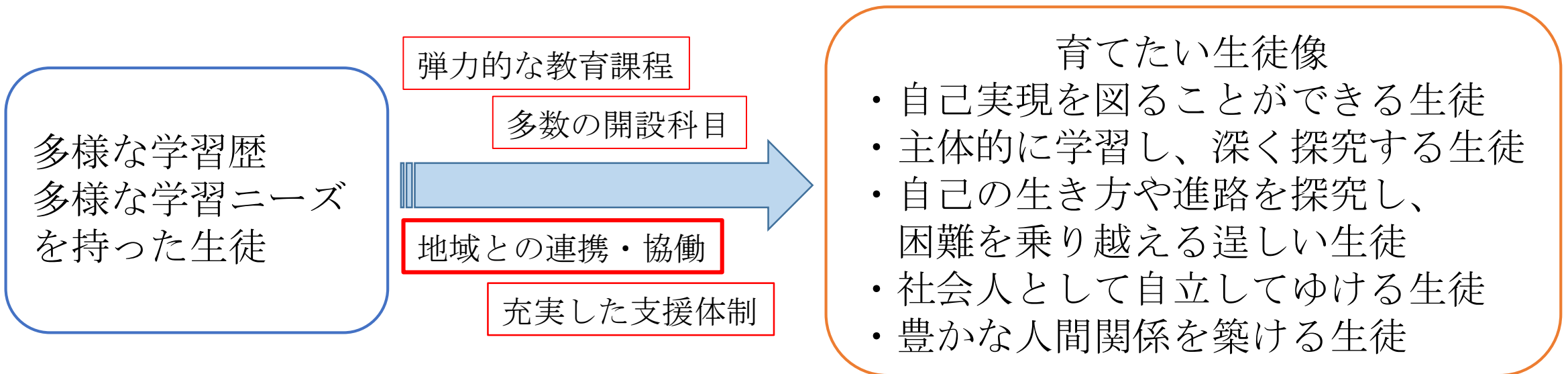
令和元年度全国高等学校教育改革研究協議会

札幌大通高校の概要

市内4校の定時制課程を再編し、生徒の多様な学習ニーズに対応するための三部制、単位制を取り入れた新しいタイプの定時制普通科高校として、平成20年に開校。各年次の定員は320名。地域の教育力の活用や地域に開かれた学校づくりを、開校以来の理念としている。

【学校教育目標】

目標に向かって挑戦し、主体的に自己の生き方や進路について探究し、豊かな人間関係を築ける生徒を育成する。



家庭や地域とともに進める学校づくり I

地域との連携・協働体制の構築に向けて、平成27年度よりコミュニティスクールを導入し、「学校運営協議会」を設置している。

★市立大通高等学校版コミュニティスクール

学校運営協議会

委員：PTA関係、地域の方、学校教職員、
学校評議員、学識経験者など

教育課程の編成、学校経営計画
組織編成、学校予算の編成及び執行
施設管理及び施設設備等の整備
に関する事

学校提示の支援事業の基本方針を協議

- ・ 支援方針は適切か。
- ・ 支援可能かどうか
- ・ 予算の区分や配分は適切か
- ・ その他提言

市立札幌大通高等学校

学校運営の基本方針

- ・ 教育課程の編成に関する事
- ・ 学校経営計画に関する事
- ・ 組織編成に関する事
- ・ 学校予算の編成及び執行に関する事
- ・ 施設管理及び施設設備等の整備に関する事
- ・ **大通高校支援事業**に関する事

承認・意見

説明・報告

承認・意見

説明・報告

家庭や地域とともに進める学校づくりⅡ①

進路・学習に対する困りを抱えた生徒に対する、外部人材による支援体制

★ 外部人材を活用した大通高校支援事業

進路支援

○就職指導支援

キャリアカウンセラーによる
相談活動 **専門家**

○キャリア開発アドバイザー

外部講師として生徒へ講話 **専門家**

学習支援

○学び直し支援 **外部ボランティア**

○図書館支援 **専門家・外部ボランティア**

教員が対応できない時間帯に専門家配置

○家庭科実習ボランティア **外部ボランティア**

実習活動が困難な生徒への支援

○日本語ボランティア **外部ボランティア**

○養蜂体験実習支援 ミツバチプロジェクト支援

専門家・外部ボランティア

家庭や地域とともに進める学校づくりⅡ②

学校生活への困りを抱えた生徒に対する、外部人材による支援体制

★ 外部人材を活用した大通高校支援事業

学校生活支援事業

- 特別支援コーディネーターアドバイザー **専門家**
SC・SSW・司法書士による個別相談
- 卒業生ピアサポーター **卒業生ボランティア**
卒業生による講話
- 学校生活アドバイザー **外部団体・PTAボランティア**
第三の居場所ドーリプレイス(校内カフェ)の運営
- 母語支援 **専門家**
生徒の思考言語である母語の発達支援

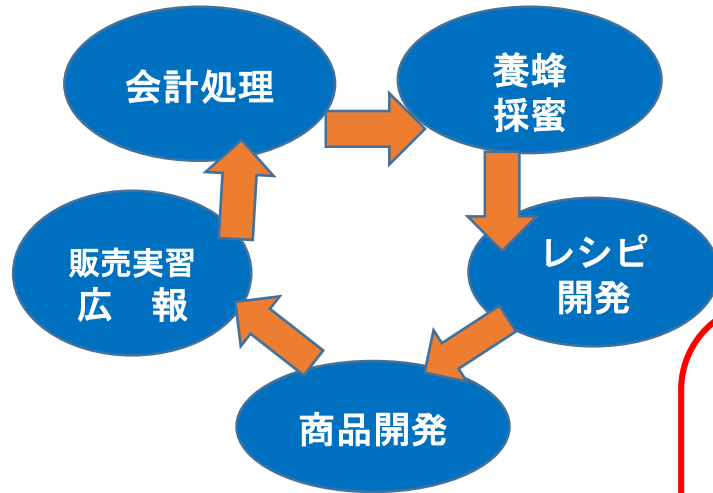
地域を学ぶのフィールドとした取組 I

教科横断型・地域連携学習として、平成24年度よりスタートした取組

★ ミツバチプロジェクト

教科横断型

理科—動物の生態—観察・飼育・採蜜
芸術科—工芸—巣箱・継箱・巣枠 木やミツロウで制作可能なモノ作り
—書道・美術—蜂蜜のラベルデザイン・包装デザイン
国語科—商品名考案
情報商業科—総合実践—蜂蜜を使用した商品開発・販売
メディア部—取材・広報活動 美術部—ラベルデザイン作成



外部との連携

商品開発
レシピ開発
販売実習

企業からの協力

商品開発協力、販売実習協力など

外部への発信

地域イベントでの販売
コンテストへの参加

地域を学ぶのフィールドとした取組Ⅱ

地域社会で学ぶ進路探究学習として、学校設定科目「キャリア探究」において学校外での学修プログラムを多数設定。活動実績が35単位時間以上で単位認定としている。

★ 地域と連携したキャリア教育プログラム

長期型プログラム(各35単位時間)

- 「アニマドーレ」
生産者と顧客をつなぐ食農教育体験。
販売体験・商品開発・広報・調理体験・
農業体験を選んで学習する。
- 「TEDxSapporo」
広げる価値のあるアイデアを
プレゼンテーションを通して世界に発信。
- 「まちなかの職業体験」
小学生が地域の商店街で職業体験をする
イベントの企画・運営。

大通高校
×
企業
地域団体

短期型プログラム

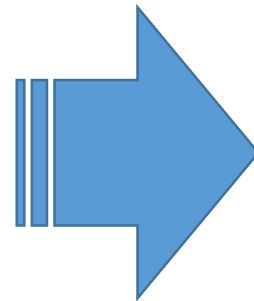
- 地域の文化の保存・継承を目的としたイベントの運営。
- 札幌の魅力を発信する
イベントの運営補助ボランティア
- 区役所の呼びかけによる
交流イベントの補助

他多数

地域連携学習により期待される効果

生徒の自己変容

- 自尊感情の高まり
- 協力することが楽しい
- 自己理解
- やりがいや達成感
- 失敗→次こそは！
- 主体的に考え、行動
- 働くことの意義
- 地域への愛着
- 地域の課題意識
- 地域への貢献意識



主体的にキャリアプランを立て、社会人として自立していける。

豊かな人間関係を築くことができる。

地域創生の担い手として、活躍できる人材となる。

地域連携学習づくりにおける留意点

学校側と連携先の双方で確認しておくべき事項

- 学校側と連携先の双方で、教育的意義や目的を共有する。
- 連携先は、事業の実施にあたって知り得た生徒の個人情報に関して、守秘義務を負う。
- 連携先は、生徒の安全面や健康面に十分配慮した活動を行う。
- 連携先は、生徒の参加状況の証明や評価に関わる情報提供に協力する。
- 連携先は、生徒が学校の授業を優先することに協力する。
- 学校側と連携先の双方は、生徒の過失による賠償などの問題が生じた場合、生徒の不利益とならないことを原則として、解消に努める。

地域連携活動を支える体制

コミュニティスクールを支える体制

- ・ 教員と外部人材による「事務局」を設置し、大通高校支援事業予算活用案の検討、外部ボランティアの開拓、学校運営協議会からの提言に基づく研究などを行っている。
- ・ 教育委員会からの予算配分により、学校運営協議会の開催及び大通高校支援事業を実施。

地域で学ぶ活動を調整する校内体制

- ・ 「渉外・調整会議」「キャリア教育推進部」が中心となって、校内の関係分掌と外部との連携窓口となり、連絡調整を行っている。

地域との連携・協働による学校づくりにおける課題

学校としての課題

- ・ 現在の取組を発展的に継続していくための持続可能な組織体制づくり

教育委員会としての課題

- ・ 各校での取組例を市立高校内で共有できる体制をつくり、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ・ 連携先の紹介等、学校と外部とをつなぐサポート体制の構築。